

アメリカ・ペンシルバニア州のいわば片田舎に（カット参照），意義深い記念の家が，博物館として修復，保存，公開されている。酸素などさまざまな目に見えない空気（気体）の発見研究で有名な Joseph Priestley (1733—1804) が，母国イギリスをのがれて1794年，2か月間の太西洋航海ののち移住し，その晩年の10年間を過した，彼の好みで建てられた家である（表紙写真上段参照）。この場所では酸素発見100年記念の集会在1874年にもたれ，それがきっかけでアメリカ化学会が創立された（1876年）ゆかりの場所でもある。同学会賞のプリーストリ・メダルと創立100年の際の記念切手などもカットに示す。

かねてからここに一度行ってみたいと思っていた私は，2年半前のポストンでの IUPAC 集会のあと，ピッツバーグから小型飛行機便でウィリアムポート空港に降り，タクシーでここを訪ねた。あらかじめ電話（714-473-9474）で連絡しておいたので管理担当者が待っておられた（月曜日休館，日曜日は午後のみ開館）。まず前庭にあるパネルや参考図書展示の小屋で，多面的なプリーストリの生涯の説明を受けた。つぎに案内された本館は，昔のたたずまい（表紙写真下段参照）のままであった。

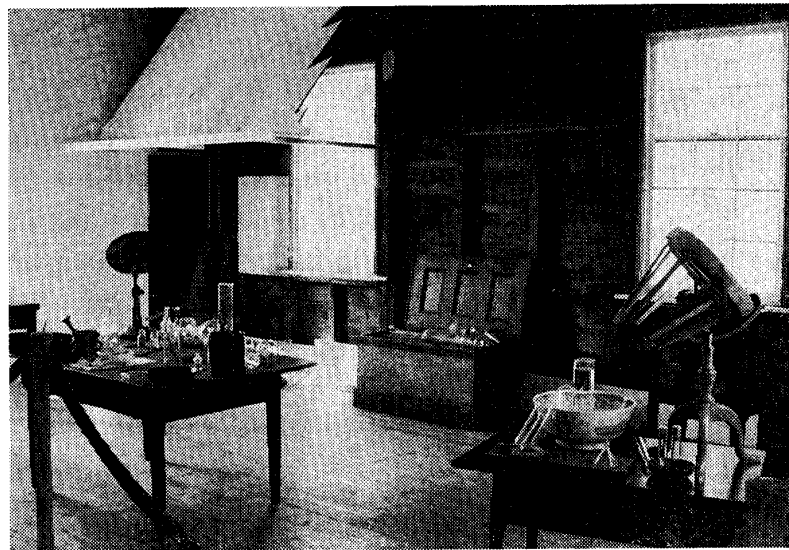


写真 2

## 【世界の大学・博物館】

ノーサンバランドの  
プリーストリ・ハウス

阪上正信

1階中央むかって右の部屋は記念品展示室となっており，神学者・教育者としてのコーナーには，講義の補助にも用いた有名な伝記図表や地球儀が執筆図書とともに展示されている（写真1）。また歴史学者として関心深かった電気学や光学それぞれのコーナー，そして天秤や顕微鏡を展示した化学のコーナーがあり，ほかの哲学のコーナー，遺品コーナーとともに要領よく展示されている。

何より興味深いのは建物の向かって右翼の，復元された実験室とその内部で，醸造発酵で生ずる気体を水に吸収させて初めてソーダ水を考案した装置や，大口

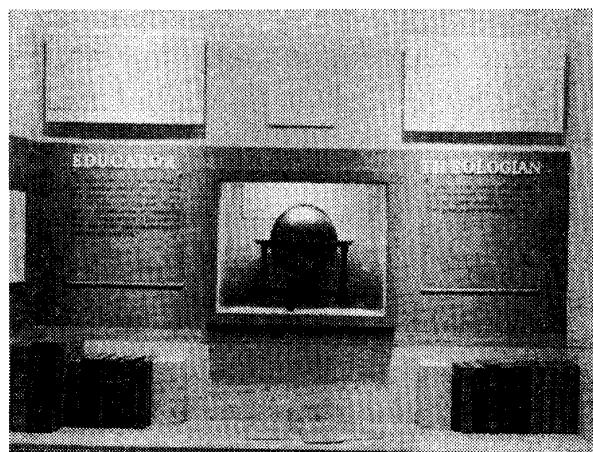


写真 1

径凸レンズで集めた太陽光加熱で赤色酸化水銀から酸素（彼のいう脱フログストン空気）を得た装置などが展示されている（写真2）。なお建物左翼の台所に近い部屋の暖炉の棚には，彼が空気の良い測定によく用いたガラス鐘内のハツカネズミの剥製をみかけた。

2階は居室・寝室で，そこには在イギリス時代から交友関係の深かったフランクリンの肖像画がある。このように片田舎にありながら忘れてはならぬ味わい深い博物館である。なお，彼のアメリカ移住前後の事情については次に詳しい。杉山忠平，“理性と革命の時代に生きて——J. プリーストリ伝”，岩波新書（青版 907）。

(Masanobu SAKANOUÉ・

金沢大学名誉教授)